

経営比較分析表（令和5年度決算）

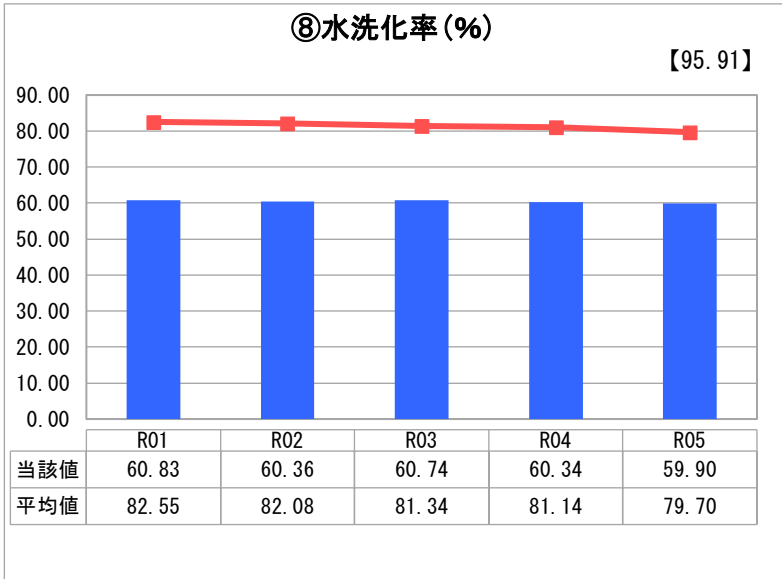
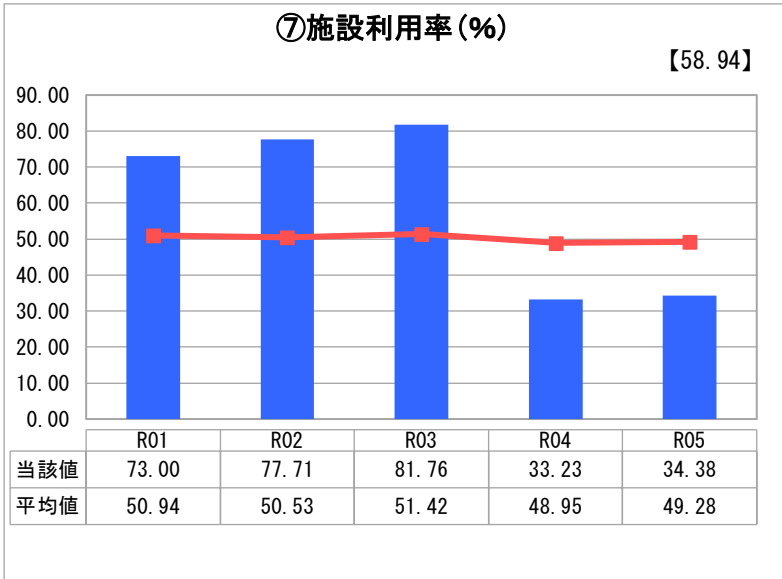
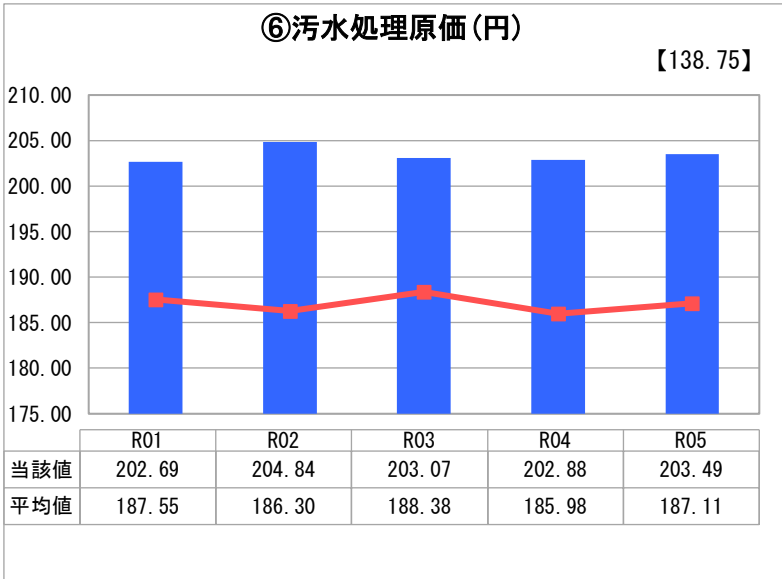
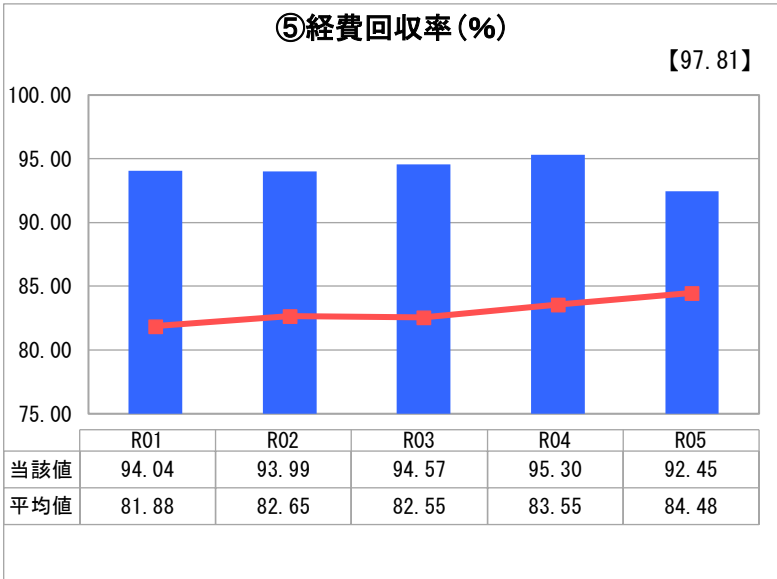
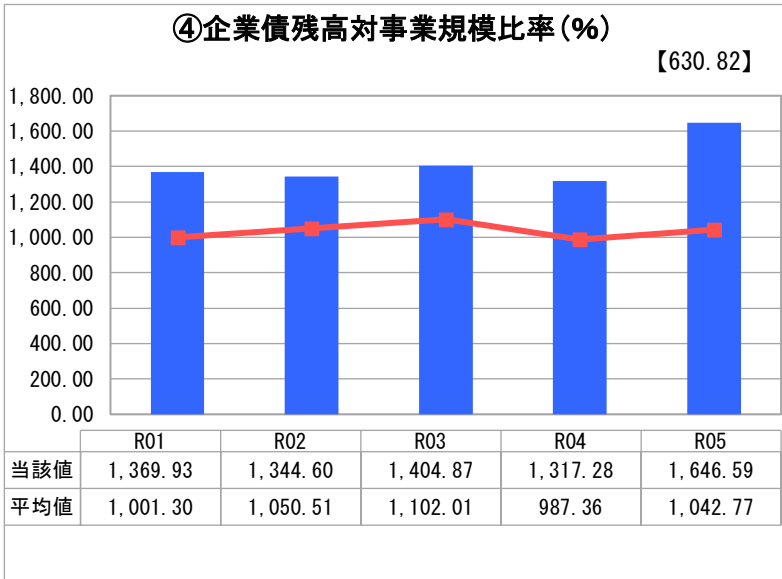
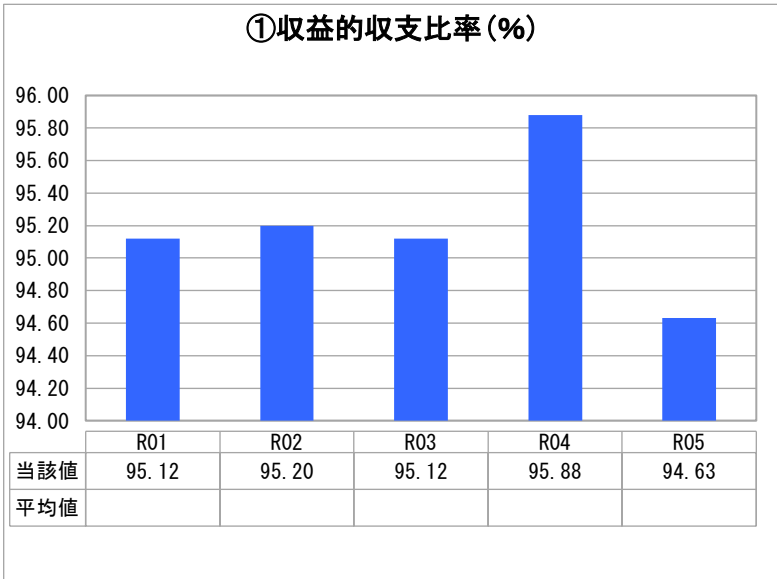
宮崎県 三股町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	50.54	100.01	3,388

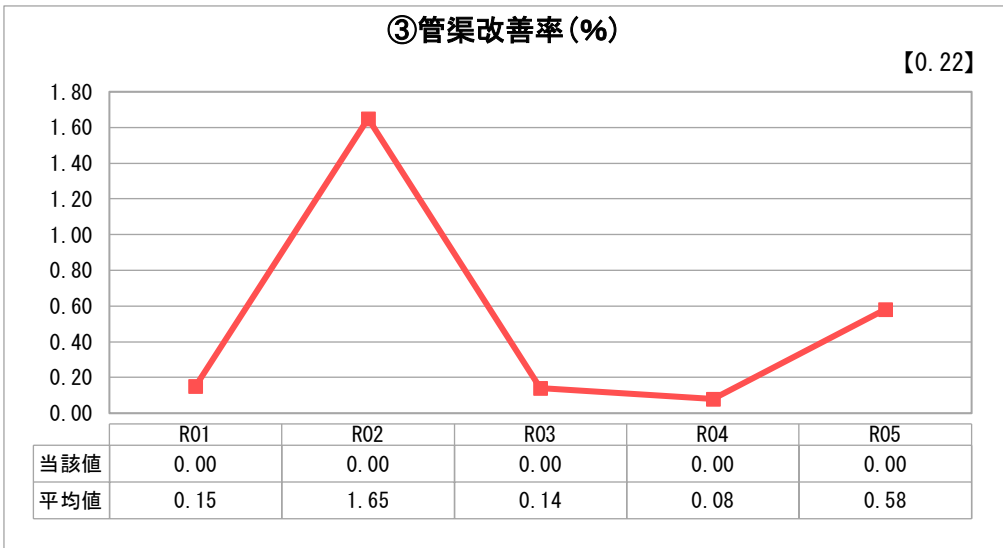
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,878	110.02	235.21
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
13,030	3.78	3,447.09

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町の公共下水道は、平成17年に供用開始し、19年が経過していますが、普及率は50.54%と低く、未普及対策を進めています。

また、令和4年度から令和8年度までに、し尿汚泥処理棟の築造事業を行っているため、当分の間は事業整備投資が増加する予定です。

①「収益的収支比率」は、94.63%で100%を下回っておりませんが、下水道整備の拡大に伴う接続件数の増加により、使用料収入は増加傾向にあります。しかし、他会計繰入金の減額に伴い、全体的に総収益が減少しており、今後は、更なる費用削減・使用料確保の取組が必要と考えます。

④「企業債残高対事業規模比率」は、現在、一般会計繰入金により賄われている状況でありますが、使用料収入の増加に伴い、起償償還への充当が見込めることから、一般会計繰入金が減少し、企業債比率が改善されていくと予想されます。しかし、当分の間は類似団体の平均値を上回る状況が続くと思われます。

また⑤「経費回収率」は、類似団体平均値84.48%に対し、本町は92.45%と上回っており、経営の改善が進んでいることが確認できます。

⑥「汚水処理原価」は、平成30年度まで類似団体平均値を下回っていましたが、今後は施設の更新等が予定されていることから、「汚水処理原価」が高くなることが予想されます。そのため、施設の延命化に努める必要があります。

⑦「施設利用率」は、処理槽増設に伴い、令和4年度から類似団体平均値を下回っており、更に効率性の向上に努める必要があります。

⑧「水洗化率」は、現在下水道整備を進めている状況であるため、ほぼ横ばいになっています。類似団体との比較では、平均値を大幅に下回っており、今後下水道接続に関する相談を増やすなど、更なる接続推進に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

平成17年の供用開始から19年が経過していますが、耐用年数を超えている管渠はなく、現時点で必要な改築等はないため、管渠改善率は低い水準となっています。しかし、処理施設については、今後徐々に耐用年数を迎えることから、施設の長寿命化計画を作成し、随時改築・修繕を行っていくことが必要となります。

全体総括

平成28年度に策定した経営戦略と、令和6年度に見直しを行っている経営戦略を基に、経営の健全性と効率性を高めるため、水洗化率向上のための対策、汚水処理施設の統合等による効率性向上のための対策が必要です。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。